作成日 2010/08/10
改訂日 2014/02/04

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

| | |
|---|---|
| 化学品の名称 | サリチル酸 |
| 製品コード | H8-15 |
| 整理番号 | H8-15-3 |
| 供給者の会社名称 | 林 純薬工業株式会社 |
| 住所 | 大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号 |
| 担当部門 | 環境・品質保証部 |
| 電話番号 | 06-6910-7305 |
| FAX番号 | 06-6910-7300 |
| 緊急連絡電話番号 | 06-6910-7305 |

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

| | |
|---|---|
| 健康有害性 | 急性毒性(経口) 区分4 |
| | 急性毒性(経皮) 区分外 |
| | 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2 |
| | 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A |
| | 皮膚感作性 区分1 |
| | 生殖細胞変異原性 区分外 |
| | 生殖毒性 区分2 |
| | 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(中枢神経系) |
| | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(中枢神経系) |
| 環境有害性 | 水生環境有害性(急性) 区分3 |
| | 水生環境有害性(長期間) 区分外 |
| | 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。 |

### GHSラベル要素

絵表示

| | |
|---|---|
| 注意喚起語 | 危険 |
| 危険有害性情報 | H302 飲み込むと有害 |
| | H315 皮膚刺激 |
| | H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ |
| | H319 強い眼刺激 |
| | H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い |
| | H370 中枢神経系の障害 |
| | H372 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害 |
| | H402 水生生物に有害 |
| 注意書き | |
| 安全対策 | 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201) |
| | すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202) |
| | 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。(P260) |
| | 取扱い後はよく手と眼を洗うこと。(P264) |

| | |
|---|---|
| | この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270) |
| | 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272) |
| | 環境への放出を避けること。(P273) |
| | 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280) |
| **応急措置** | 飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。(P301+P312) |
| | 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。(P302+P352) |
| | 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) |
| | ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313) |
| | 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314) |
| | 特別な処置が必要である。(P321) |
| | 口をすすぐこと。(P330) |
| | 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313) |
| | 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313) |
| | 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364) |
| **保管** | 施錠して保管すること。(P405) |
| **廃棄** | 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501) |

## ３. 組成及び成分情報

**化学物質・混合物の区別** 化学物質

**化学名又は一般名** Ｏ－ヒドロキシ安息香酸、２－ヒドリキシ安息香酸

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学特性 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 化審法 | 安衛法 | |
| サリチル酸 | 99.0%以上 | $HOC_6H_4COOH$ | (3)-1640 | 公表 | 69-72-7 |

**分類に寄与する不純物及び安定化添加物** 情報なし

## ４. 応急措置

| | |
|---|---|
| **吸入した場合** | 空気の新鮮な場所に移し、安楽に待機させ、窮屈な衣服部分を緩めてやる。 |
| | 医師の手当、診断を受けること。 |
| **皮膚に付着した場合** | 汚染した衣服、靴、靴下を脱がせ遠ざける。接触した身体部位を水と石鹸で洗うこと。 |
| | 医師の手当、診断を受けること。 |
| **眼に入った場合** | 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| | 医師の手当、診断を受けること。 |
| **飲み込んだ場合** | 直ちに多量の水を飲ませる。 |
| | 口をすすぐこと。 |
| | 医師の手当、診断を受けること。 |

## ５. 火災時の措置

| | |
|---|---|
| **消火剤** | 水噴霧,粉末消火薬剤,二酸化炭素,泡消火薬剤,乾燥砂 |
| **特有の危険有害性** | 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。 |
| **特有の消火方法** | 周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。 |
| | 移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。 |
| | 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。 |
| **消火を行う者の保護** | 消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な防護服（耐熱性）を着用する。 |

## 6. 漏出時の措置

**人体に対する注意事項、保護具および緊急措置**　作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業を行わない。

**環境に対する注意事項**　汚染された排水等が適切に処理されずに環境に排出しないように注意する。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材**　漏出物は、粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。

回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

**取扱い**

**技術的対策**　吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。

長時間または反復の暴露を避ける。

漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

作業後は容器を密栓し、うがい手洗いを十分にする。

取り扱う場合は局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱う。

**安全取扱注意事項**　使用前に使用説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

排気用の換気を行うこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

環境への放出を避けること。

眼、皮膚、衣服との接触を避ける。

**保管**

**安全な保管条件**　直射日光、湿気を避け、強酸化物質から離して、容器は密閉して換気の良い冷暗所に保管する。

施錠して保管すること。

**安全な容器包装材料**　遮光した気密容器(ガラス、ポリエチレン)

## 8. ばく露防止及び保護措置

| | 管理濃度 | 許容濃度(産衛学会) | 許容濃度(ACGIH) |
|---|---|---|---|
| サリチル酸 | 設定されていない | | |

**設備対策**　取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

**保護具**

**呼吸器の保護具**　防塵マスク、自給式呼吸器(火災時)。

**手の保護具**　保護手袋

**眼の保護具**　保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

**皮膚及び身体の保護具**　保護服、保護長靴、保護前掛け。

## 9. 物理的及び化学的性質

**外観**

**物理的状態**　固体

**形状**　針状結晶又は結晶性粉末

**色**　白色

**臭い**　無臭またはわずかなフェノール臭

**臭いのしきい(閾)値**　データなし

pH　水溶液は弱酸である。
融点・凝固点　158～161℃(76℃で昇華)
沸点、初留点及び沸騰範囲　211℃(20mmHg)
引火点　157℃
蒸発速度　情報なし
燃焼又は爆発範囲　データなし
蒸気圧　114Pa(130℃)
蒸気密度　4.8(空気＝1)
比重(密度)　1.44g/cm$^3$(20℃)
溶解度　水:0.2%(20℃)、エタノール、ジエチルエーテルに溶けやすい。
n-オクタノール／水分配係数　2.2
動粘性率　データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性　情報なし
化学的安定性　通常の取扱い条件においては安定。吸湿性で光と反応する。50～60℃以上になると揮発性が顕著になる。
危険有害反応可能性　強塩基、強酸化剤と激しく反応する。粉末又は顆粒状は空気と混合すると粉塵爆発の可能性がある。
避けるべき条件　日光、湿気。高温物、裸火、火花等の発火源。強塩基及び強酸化剤との接触。
混触危険物質　強塩基、強酸化剤。
危険有害な分解生成物　フェノール。

## 11. 有害性情報

急性毒性:経口　ラットの$LD_{50}$値として5件のデータ(1500-2000 mg/kg (JECFA WHO 228 (1962))、1100 mg/kg (JECFA 7742 (2002))、891 mg/kg、1580 mg/kg、1280 mg/kg (NTP TR524 (2007)))があり、いずれも区分4に該当する。
急性毒性:経皮　ラットの$LD_{50}$は>2000 mg/kgで死亡例なしとの報告(NTP TR524 (2007))に基づき、区分外とした。
急性毒性:吸入(粉じん、ミスト)　ラットの$LC_{50}$値は粉塵ばく露で >0.9 mg/L/1h (>0.225 mg/L/4h)(IUCLID (2000))と報告されているが、区分を特定できないので分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性　ヒトに0.2%または1.5%のサリチル酸溶液を21日間の閉塞または半閉塞貼付した試験では、本物質は非刺激性(nonirritating)と結論され(NTP TR524 (2007))、また、ウサギを用いた試験で刺激性スコアは0.16/8.0で軽度の刺激性(slightly irritating)と報告されている(IUCLID (2000))が、ヒトのボランティアによる試験で刺激性あり(irritating)との結果(IUCLID (2000))、13人の患者でサリチル酸塩使用と関連する中毒性の表皮壊死発生の報告(PIM 642 (1998)、List1相当)、さらにサリチル酸は高濃度(20%以上)で焼灼作用があるとの記載(IUCLID (2000))により、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性　ウサギの眼に3%溶液を滴下し、強い刺激性(highly irritating)との結果(IUCLID (2000))に基づき、区分2Aとした。
呼吸器感作性　データなし。なお、喘息のヒトは特にサリチル酸塩に対し著しい感受性を示し、蕁麻疹、発疹、血管性神経症、鼻炎、および重度で時に致死性とも言える発作性気管支痙攣、呼吸困難、ショック、失神など、種々の反応を引き起こす(PIM 642 (1998))と述べられている。
皮膚感作性　マウスのLLNA法による皮膚感作性試験で陽性(positive)の報告(NTP TR524(2007))に基づき、区分1とした。なお、本物質は局所使用でアレルギー性接触皮膚炎を起こすおそれがあるとの記述(PIM 642 (1998))の一方、マウス耳介腫脹試験では感作性なし(not sensitizing)との報告(IUCLID (2000))もある。
生殖細胞変異原性　マウスに腹腔内または経口投与による染色体異常試験(in vivo変異原性試験)で、両経路とも染色体異常の有意な増加は見られず陰性(HSDB (2009))であったことから、区分外とした。なお、マウスの経口投与による精巣DNAへのトリチウムチミジン取り込み試験(生殖細胞in vivo変異原性試験)では、トリチウムチミジン取り込みが有意に減少した(HSDB(2009))と報告されている。

また、in vitro試験として、エームス試験で陰性の結果（HSDB (2009)、安衛法 変異原性試験データ集 補遺2版 (2000)）が報告されている。

**生殖毒性**

ラットの妊娠20および21日目に経口投与（10 mg/kg）により、分娩開始時間の有意な促進（HSDB (2009)）、ラットの妊娠8～14日に混餌投与により、母動物の体重低下に加え、新生仔死亡の増加、同腹仔数の減少が見られ、仔の外表異常および骨格異常の発生率が増加した（HSDB (2009)）。以上より、母動物に一般毒性が発現している用量で生殖への影響が認められることから区分2とした。なお、サリチル酸塩はヒトで医薬品として使用され、出生前死亡率の増加、分娩前後の出血、妊娠期間の延長、分娩異常などが見られるため、妊娠3期（妊娠後期）の使用は避けるべきとされ（PIM 642 (1998)）、特に静注剤のサリチル酸ナトリウムについては、妊娠または妊娠している可能性のある婦人には投与禁忌とされている（医療用医薬品集 (2010)、List1相当）。

**特定標的臓器毒性（単回ばく露）**

本物質を含有する局所クリーム剤で治療された乾癬の患者が脳症を発症、さらに治療不応性低血糖あるいは酸・塩基平衡障害を呈し、救急血液透析により回復したとの症例報告（HSDB (2009)）を初め、同様の症例が複数報告されている（HSDB (2009)）。また、帯状魚鱗癬の5歳の子供に軟膏剤として使用後、発熱、呼吸亢進、呼吸性アルカローシス、昏睡状態、注視発作を起こしたと報告されている（HSDB (2009)）。本物質は毒性用量で呼吸中枢を刺激し、呼吸性アルカローシスを生じ、重度の中毒では代謝性アシドーシスを起こす。さらに、標的臓器の一つに中枢神経系が記載されている(PIM 642 (1998))ことから、区分1（中枢神経系）とした。なお、アスピリン（アセチルサリチル酸）を摂取した子供に肝性脳症が報告されている(PIM 642 (1998))ように、サリチル酸塩では肝臓や肺など中枢神経以外の器官に対する影響が報告されているが、当該物質自体についてヒトでの具体的な報告はない。

**特定標的臓器毒性（反復ばく露）**

10%軟膏で4週間以上治療された尋常性魚鱗癬の7歳の子供が、ぜん鳴、嘔吐、めまいに続き、呼吸亢進によると思われる深い傾眠状態となり、入院に至った症例報告（PIM 642 (1998)）がある。また、クリーム剤を5日間使用していた乾癬の患者が脳症を発症し、集中治療室に入院した報告（HSDB (2009)）もある。一方、急性的過剰摂取よりも慢性中毒による方が死亡率が高く、死亡は突然の心停止、または時には重度の脳障害に続く多発性の合併症に因る（PIM 642 (1998)）と述べられている。本物質ばく露による標的臓器の一つとして中枢神経系の記載（(PIM 642 (1998))）もあり、区分1（中枢神経系）とした。

## 12. 環境影響情報

**水生環境有害性（急性）**

藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）の96時間$EC_{50}$ = 65mg/L(環境省生態影響試験, 2000) から区分3とした。

**水生環境有害性（長期間）**

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BODによる分解度：88.1%(既存点検, 1976)) 、藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）の72時間NOEC＝31mg/L(環境省生態影響試験, 2000) であることから区分外となる。
慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類（メダカ）の96時間$LC_{50}$＝>100mg/Lであり(環境省生態影響試験, 2000)、急速分解性があり (BODによる分解度：88.1%(既存点検, 1976)) 、生物蓄積性が低いと推定される（log Kow＝2.26(PHYSPROP Database, 2012)）ことから、区分外となる。
以上の結果から、区分外とした。

**生態毒性**

情報なし

**オゾン層への有害性**

データなし

## 13. 廃棄上の注意

**残余廃棄物**

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。

**汚染容器及び包装**

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

**国際規制**

**海上規制情報**　該当しない

**UN No.**　該当しない

| | |
|---|---|
| Marine Pollutant | Not applicable |
| Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex Ⅱ, and the IBC code | Not applicable |
| 航空規制情報 | 該当しない |
| UN No. | 該当しない |
| 国内規制 | |
| 陸上規制情報 | 該当しない |
| 海上規制情報 | 該当しない |
| 国連番号 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | 非該当 |
| MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 | 非該当 |
| 航空規制情報 | 該当しない |
| 国連番号 | 該当しない |
| 特別安全対策 | 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。 |

## 15. 適用法令

| | |
|---|---|
| 外国為替及び外国貿易法 | 輸出貿易管理令別表第1の16の項(2) |

## 16. その他の情報

参考文献

国際化学物質安全性カード(ICSC)

16514の化学商品(化学工業日報社)

独立行政法人　製品評価技術基盤機構

The Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH

その他

当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。

現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。

当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。

当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。

国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。

このSDSは林 純薬工業株式会社の著作物です。

当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。